

もっと現場を知る！職員短期派遣研修報告書

所属名	県央県土整備事務所	氏名	高橋佳奈子
派遣先 団体名	邑南町公民館連絡協議会		
<p>① 研修の日時</p> <p>8月4日8:30～8月5日12:00 チャレンジ2014 歩こう広島まで 8月20日8:00～8月21日12:00 おおなんサマーボランティアリーダー研修 12月6日8:00～14:30 平成26年度邑南町公民館研究交流集会</p> <p>② 研修の内容(できるだけ詳しく記載してください。)</p> <p>「チャレンジ2014歩こう広島まで」 旧瑞穂町内の被爆者数は400人と周辺と比較して多い。これは学徒動員などで広島へ行っていた人が多いためである。被爆者の多くは広島市内から旧瑞穂町まで徒歩で帰宅している。これを逆からたどり、追体験することで平和を学ぶ。参加年齢は様々だが、中学生が多い様子。 事前学習会で学徒動員当時13才だった被爆者から、入市被爆をしたこと、凄惨な原爆投下当時様子、体調を崩し帰宅を言い渡されたこと、広島市内から瑞穂町内の自宅まで徒歩で、暑さを避けるため夜間に移動し帰ってきたこと、一緒に帰ってきた人は次々亡くなっていったことなどを学ぶ。 出羽公民館を正午に出発、未明に1,2時間仮眠する以外は歩き続け、翌朝広島市の平和公園に到着、邑南町内の学校や公民館で作成された千羽鶴を奉納する。 徒歩スタッフとして参加した。</p> <p>「おおなんサマーボランティアリーダー研修」 邑南町内の小学高学年を対象とした研修。研修を通して、小学生は地域についての認識を深め、リーダーとしての経験を養う。地域住民にとっては地域づくり人づくりの意識も育成の場。 初日は邑南町日貫地域の歴史を学び、これを参考に当時の庄屋についての映画を1日で製作。当日台本を渡され、その日のうちに撮影を行う、しかもほとんど認識もない時代劇。子供らにかかったプレッシャーは小さくはなかったが、プレッシャーを跳ね返し、成長を遂げていた。 小学生は二人一組程度に分かれて農家民泊をし、スタッフは日貫公民館で待機。翌朝民泊を終えた小学生と民泊受け入れ者が日貫公民館に集合。障がいについて学び、仕上げとして映画上映と反省会。サポートスタッフとして参加した。</p> <p>「平成26年度邑南町公民館研究交流集会」 邑南町の12の公民館は「日本一の公民館」を目指し3年間取り組んできている。一旦活動を振り返り、更なる高みを目指す。 地域住民と公民館職員が一堂に会し、公民館の役割についての講演や他公民館の活動発表、おおなんサマースクールの映画メイキング上映などにより今後の公民館について考える。昼食として公民館活動の一つである「男の料理教室」の成果発表。地域住民の方は、普段は公民館を利用していないが頼まれ</p>			

て参加した、という人も多く、新たな発見の場になった様子であった。
スタッフ兼参加者として参加した。

③ 研修の感想

(研修の全般的な感想、各団体での活動の意義や協働に対する感想(研修前後における意識の変化)等について記入してください。)

普段は個々の公民館が独自の活動をしているが、時には公民館が連携して町単位のイベントを仕掛ける。町職員が全公民館に配置されているためサポートが厚く、また、前のめりな姿勢にも圧倒される。

地域を盛り上げるのは人であり、その人を育てるのが地域であるというのがよく分かる。

公民館単位というのは、身近な行政単位として適しており、合併で中心地が遠くなる中では、公民館に行政の相談窓口を付加するという手もあるのではないかと感じた。

④ その他特記事項

(※今後の研修実施に当たっての改善点、留意しておくべきことなどがあれば記入してください。)

(注)研修日時・内容等がわかる資料があれば、添付してください。